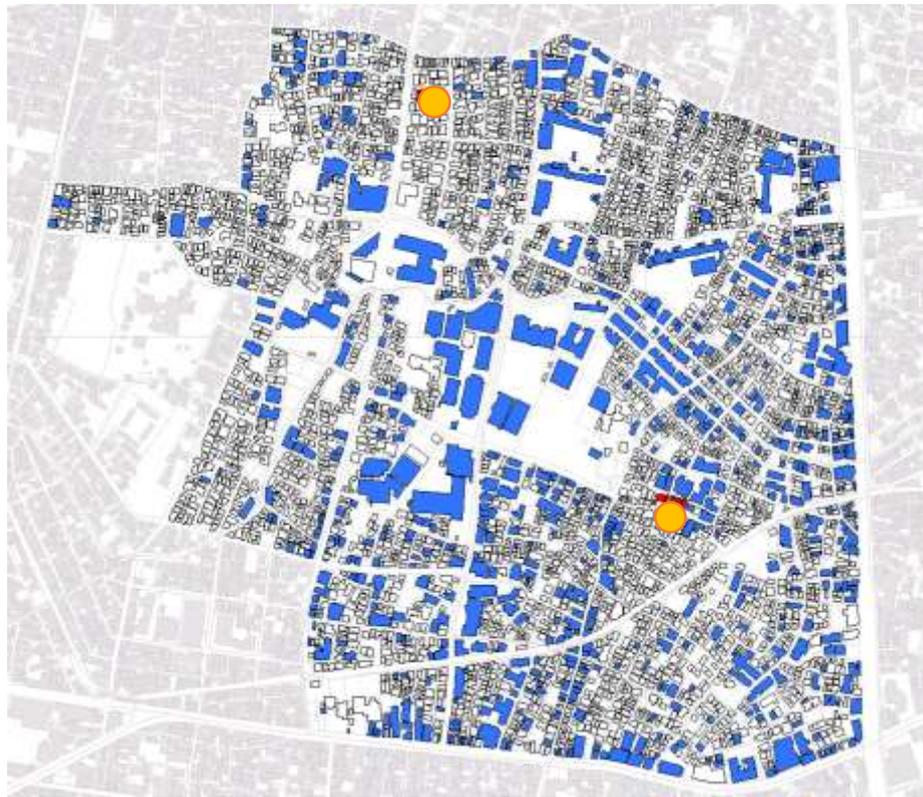


4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

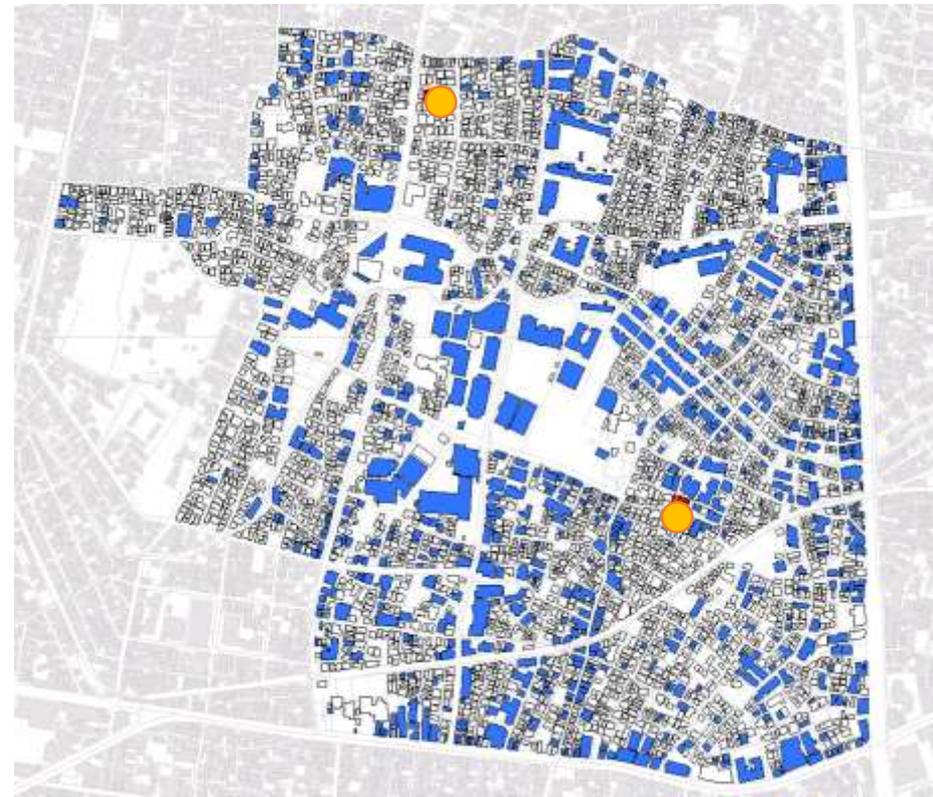
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **15**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **8**棟



30分

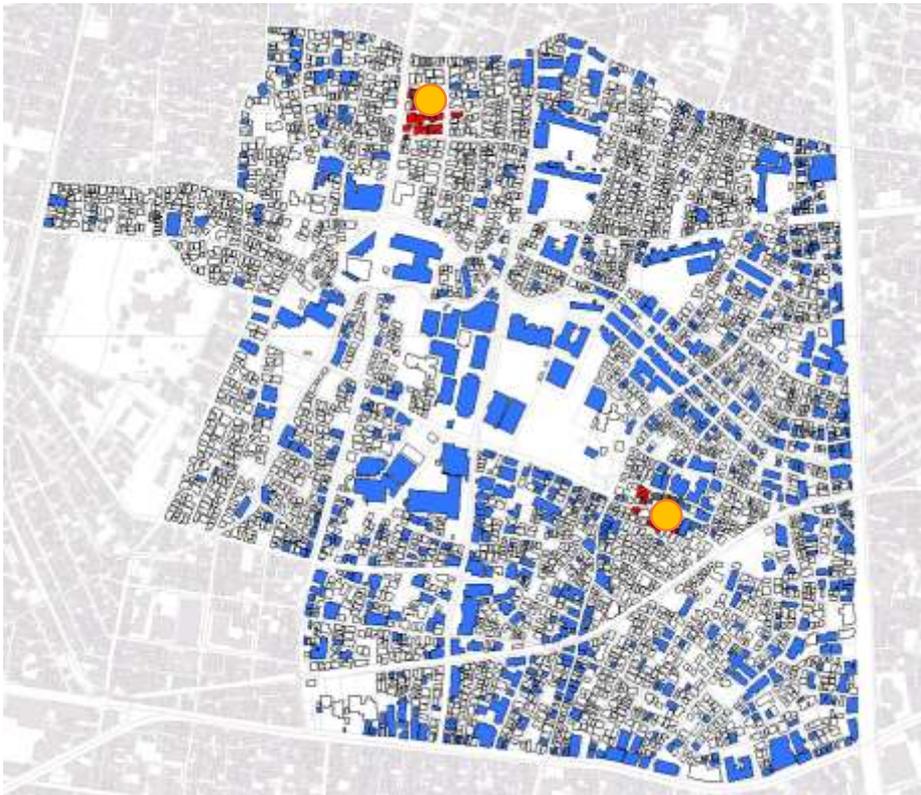
■ 耐火造 ● 出火点 49

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

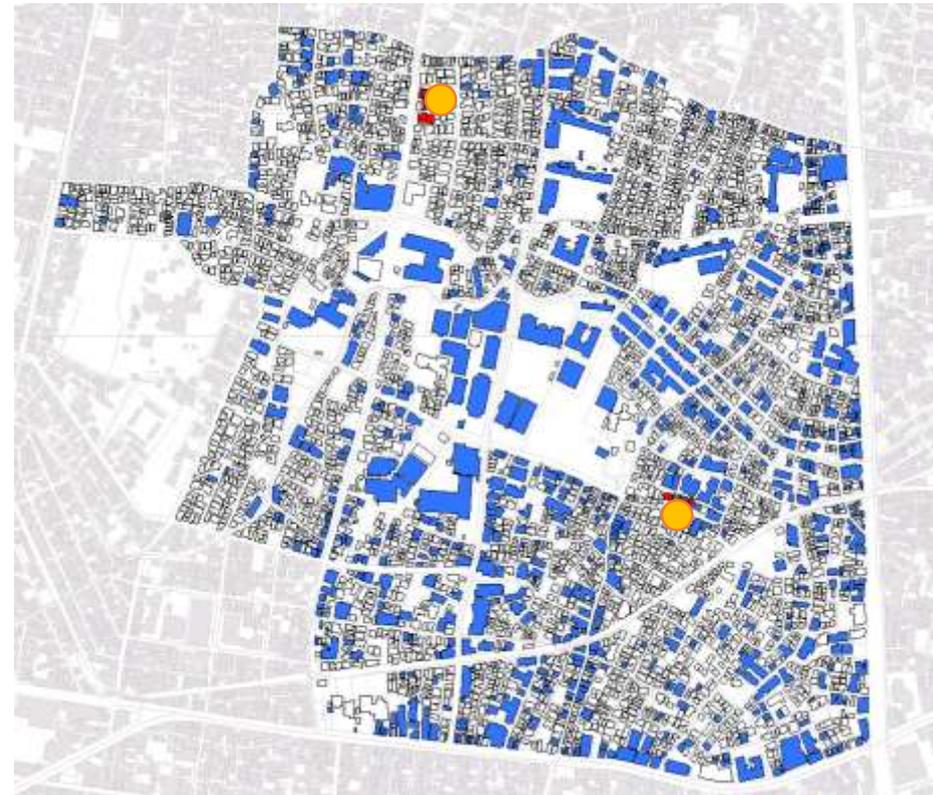
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **43**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **17**棟



60分

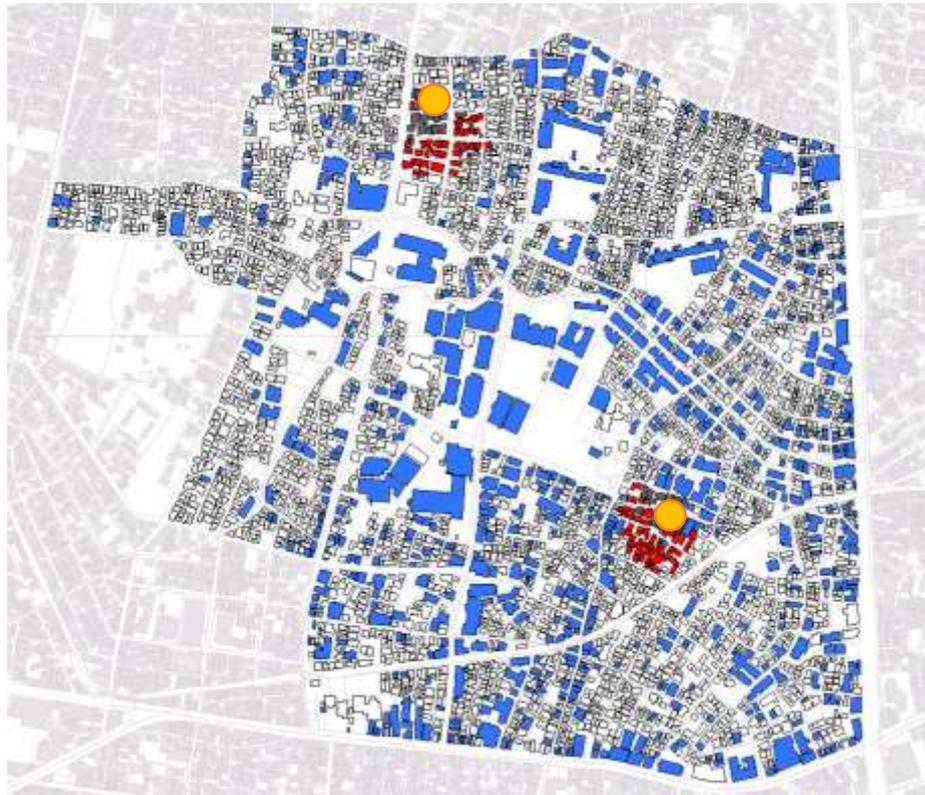
■ 耐火造 ● 出火点 50

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

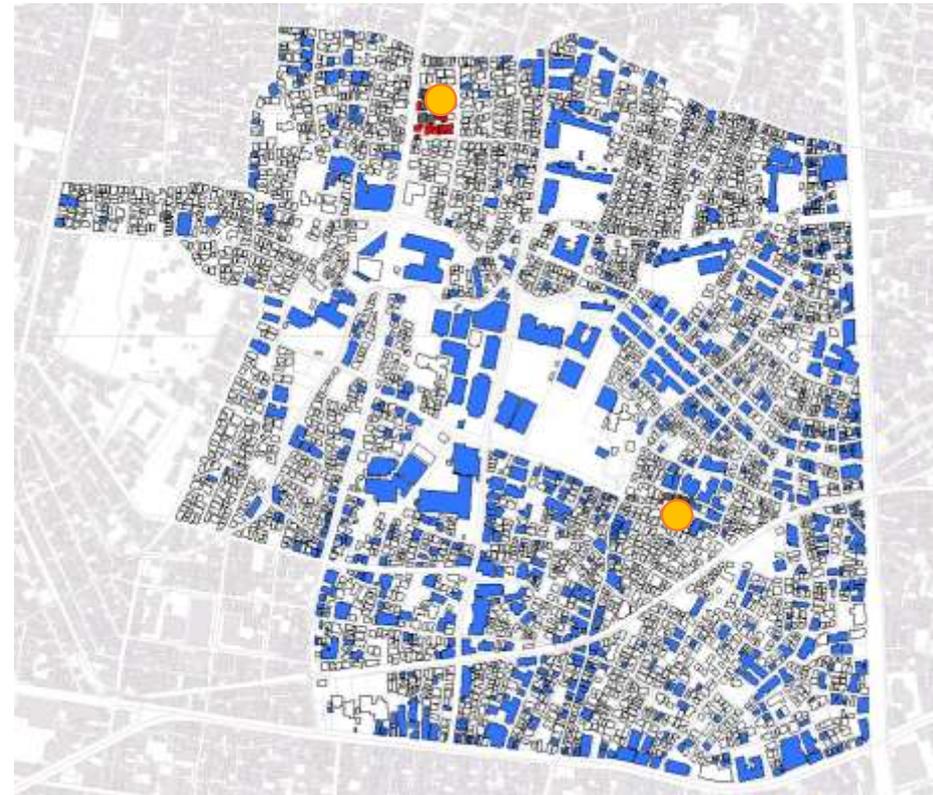
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **150**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **31**棟



90分



耐火造



出火点

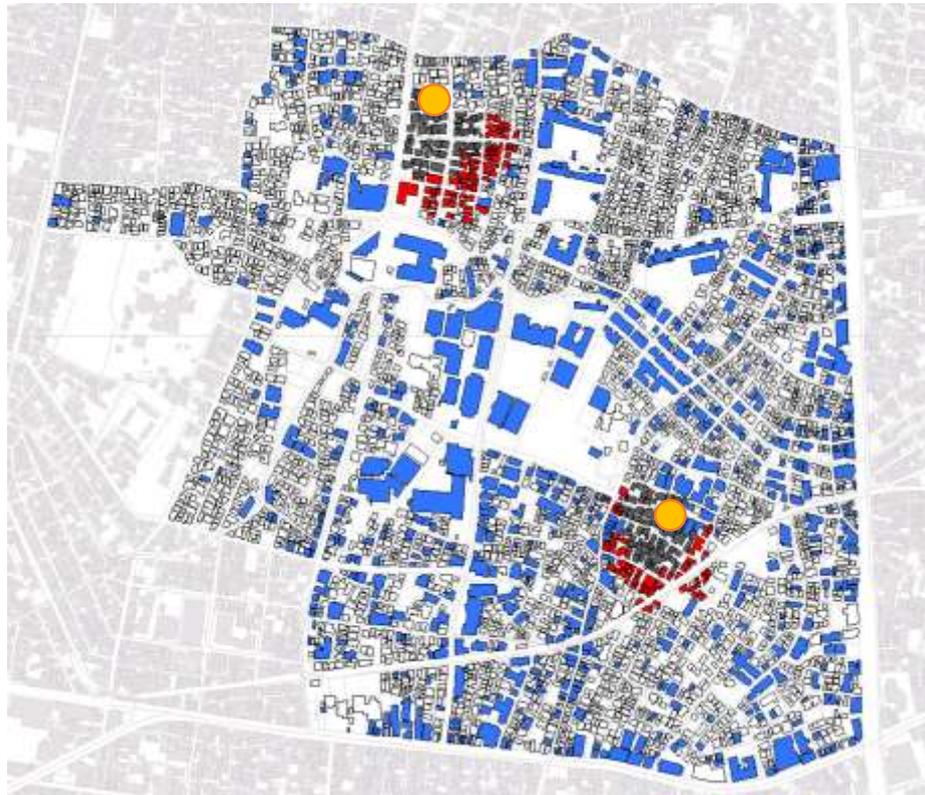
51

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

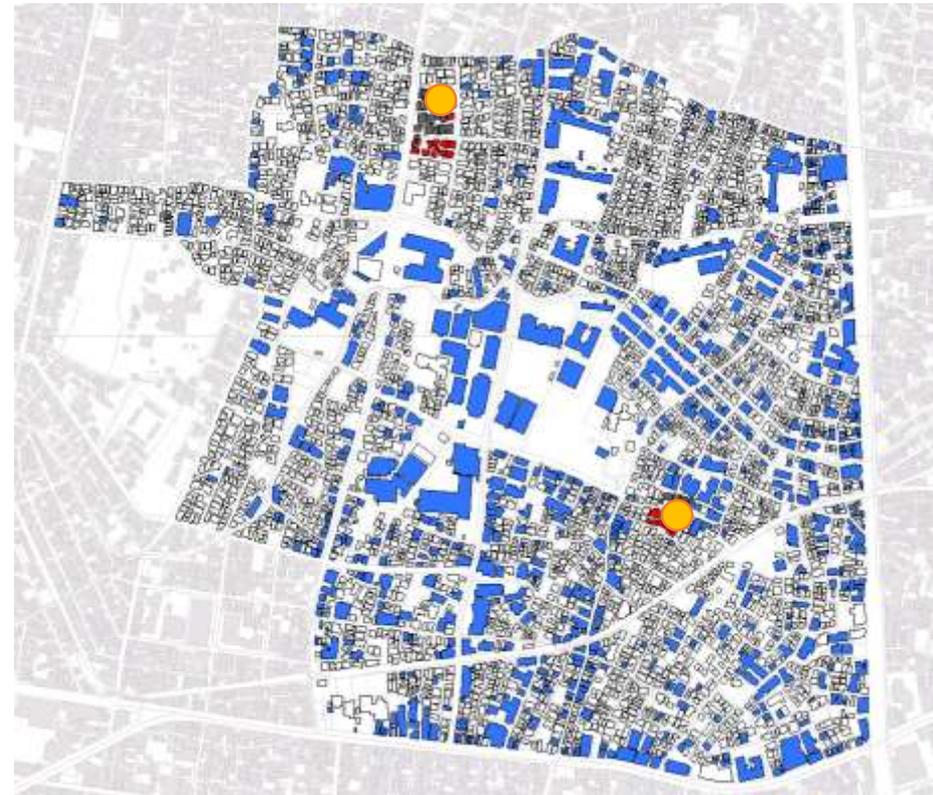
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **289**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **56**棟



120分



耐火造



出火点

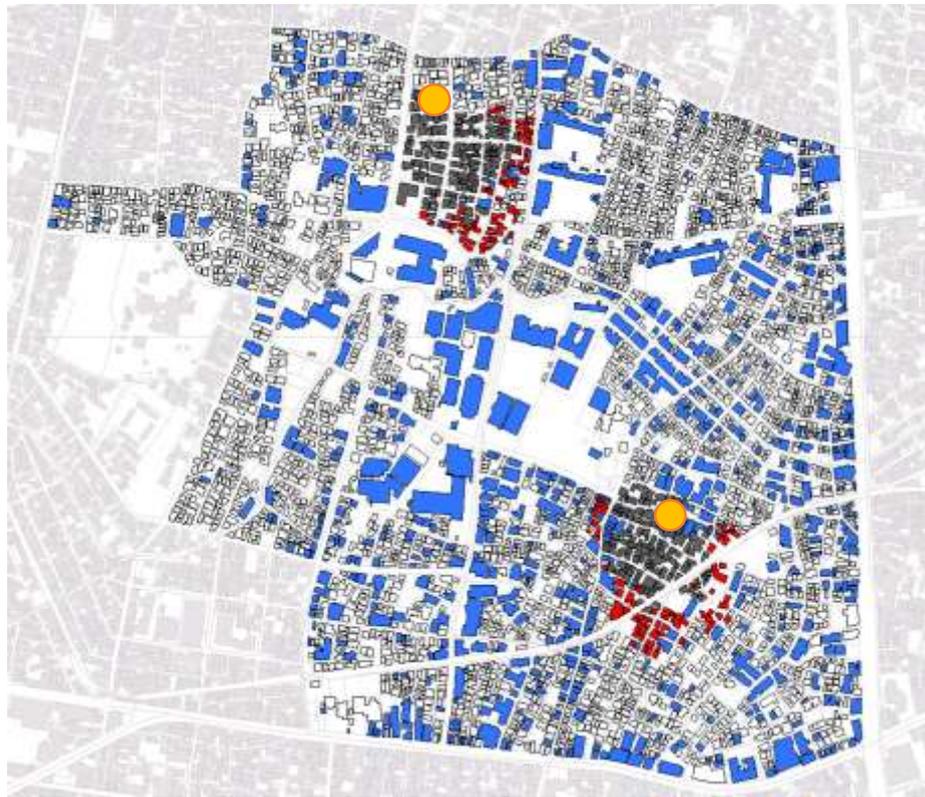
52

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

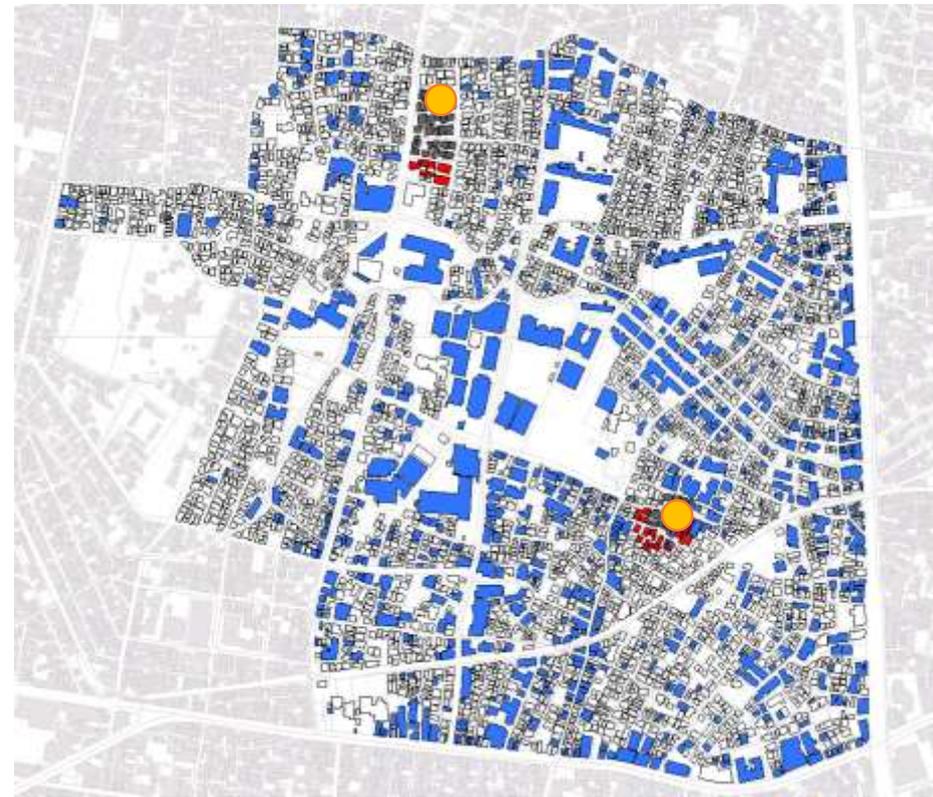
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **428**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **91**棟



150分



耐火造



出火点

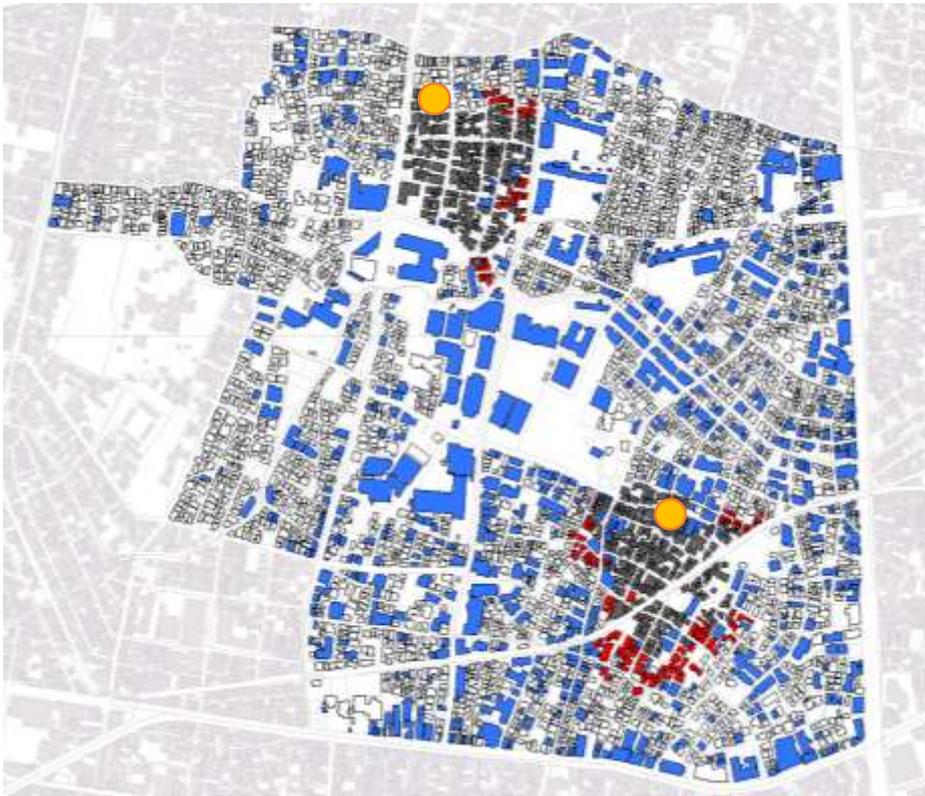
53

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

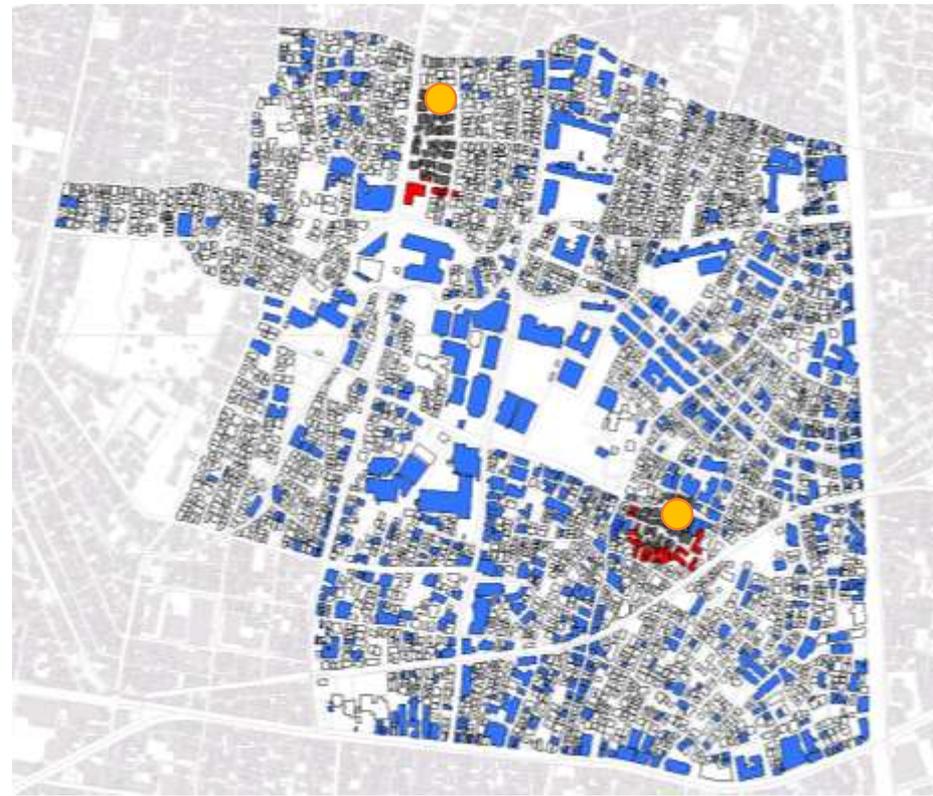
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **569**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **128**棟



180分

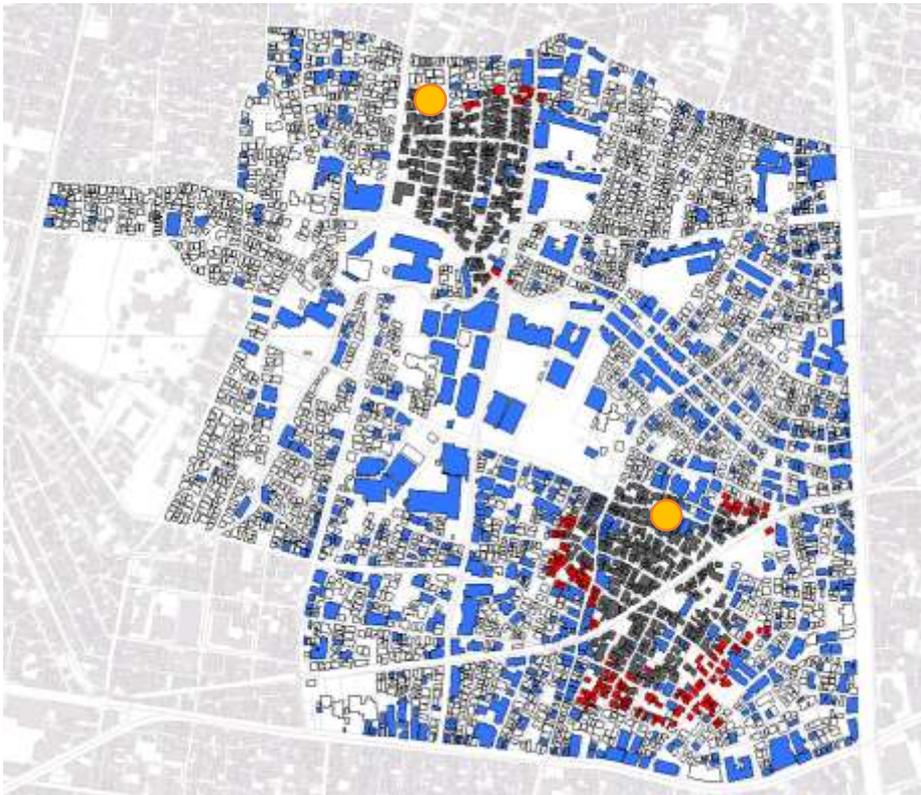
■ 耐火造 ● 出火点 54

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

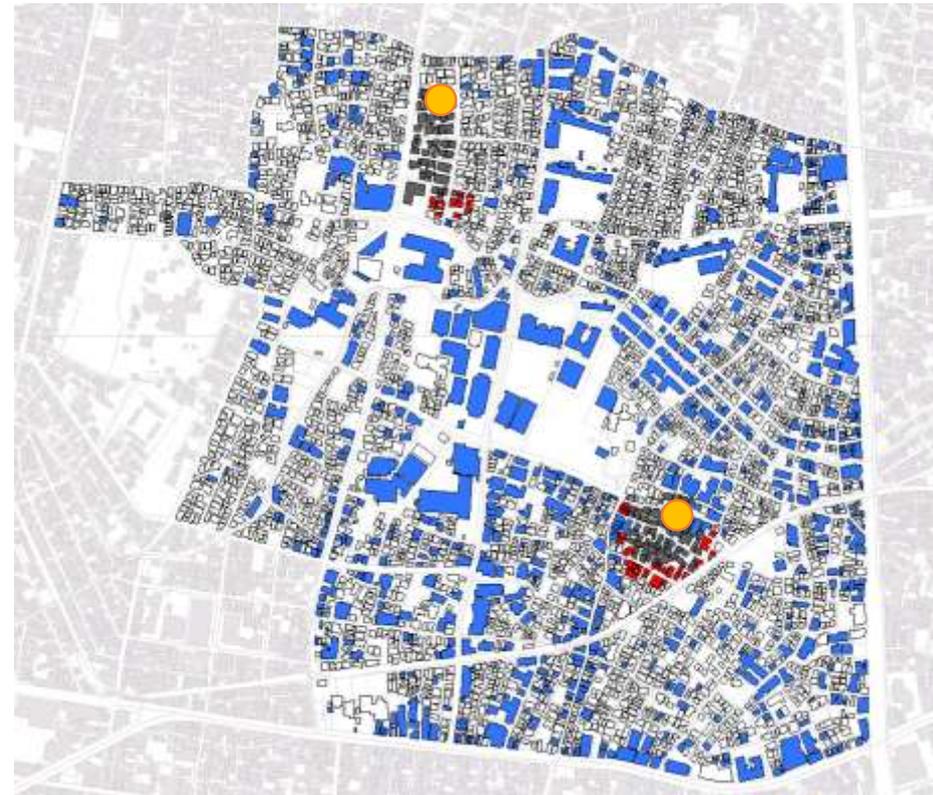
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **737**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **176**棟



210分



耐火造



出火点

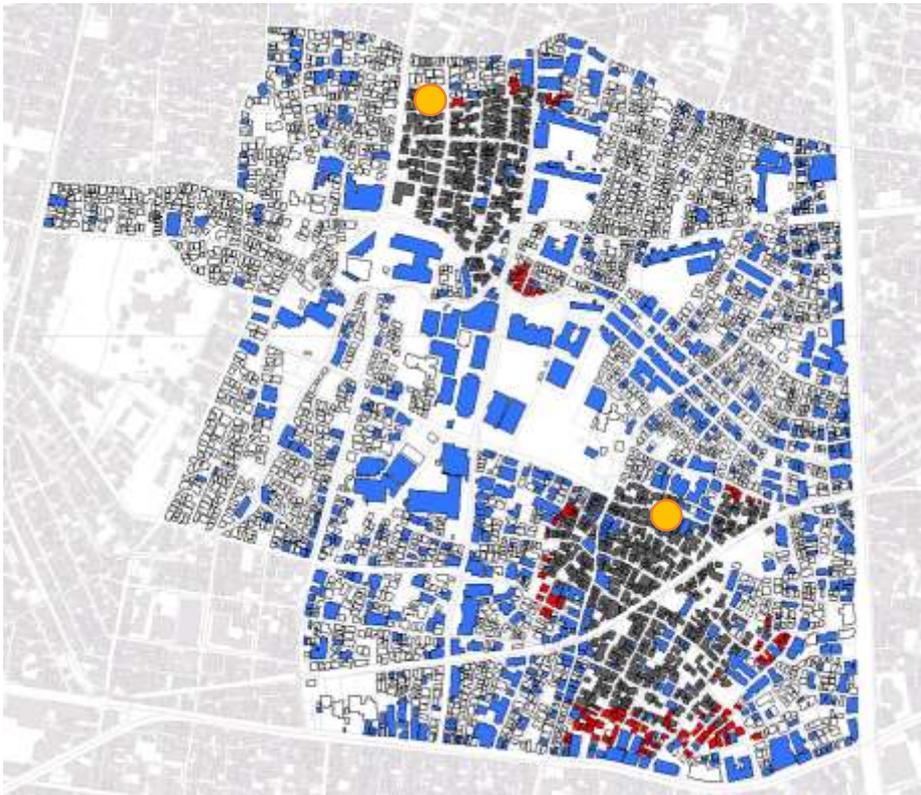
55

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

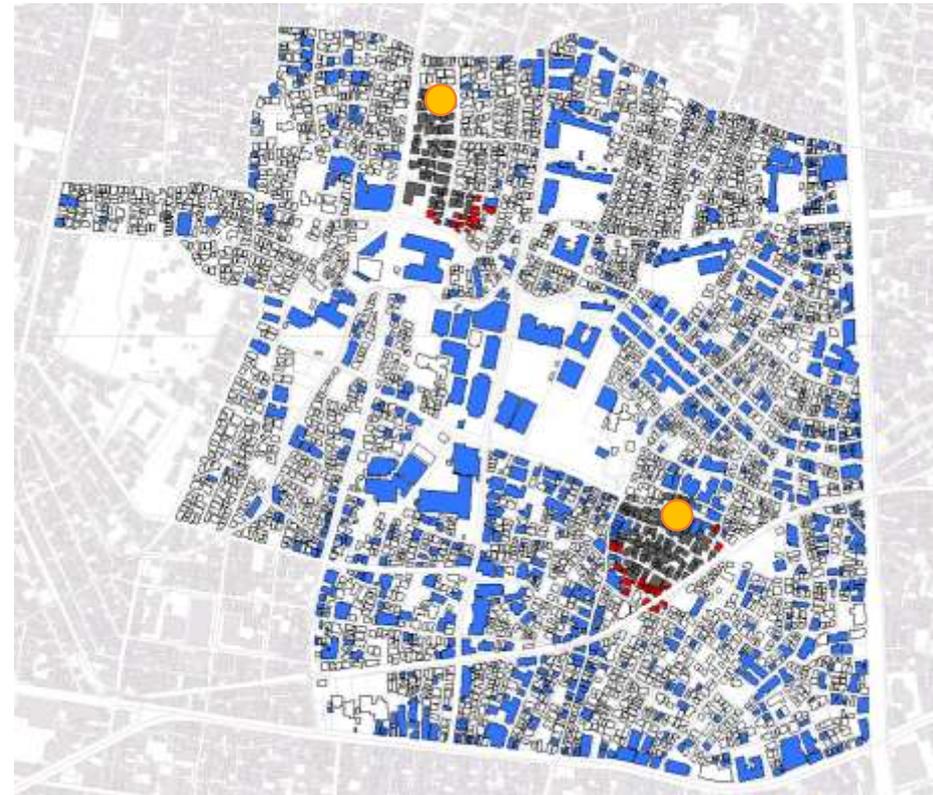
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **872**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **215**棟



240分



耐火造



出火点

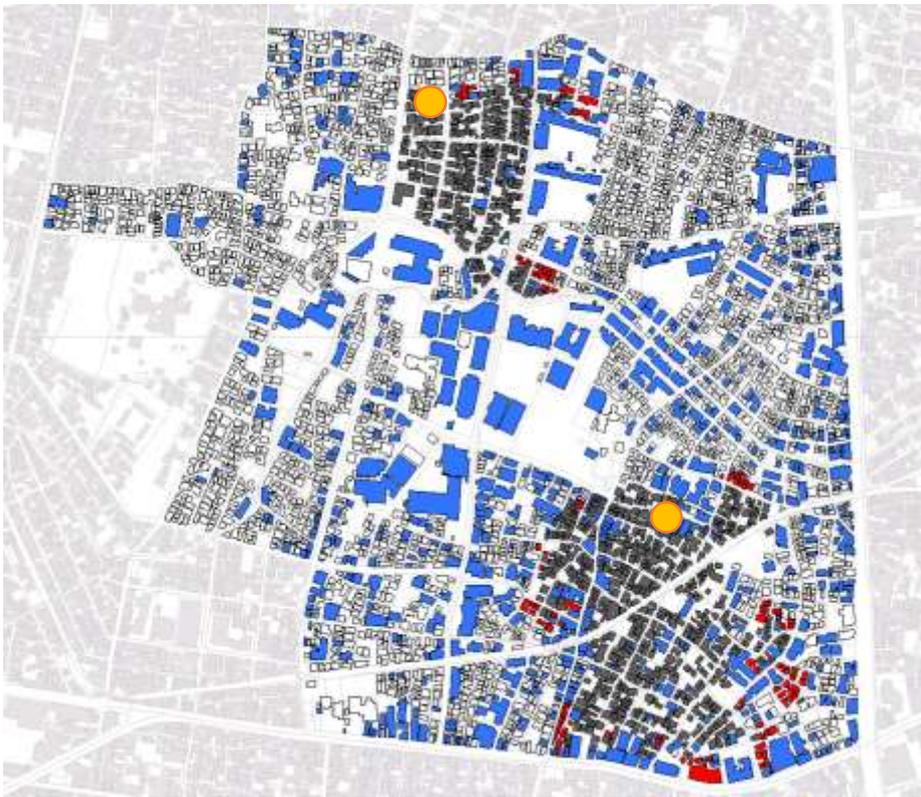
56

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

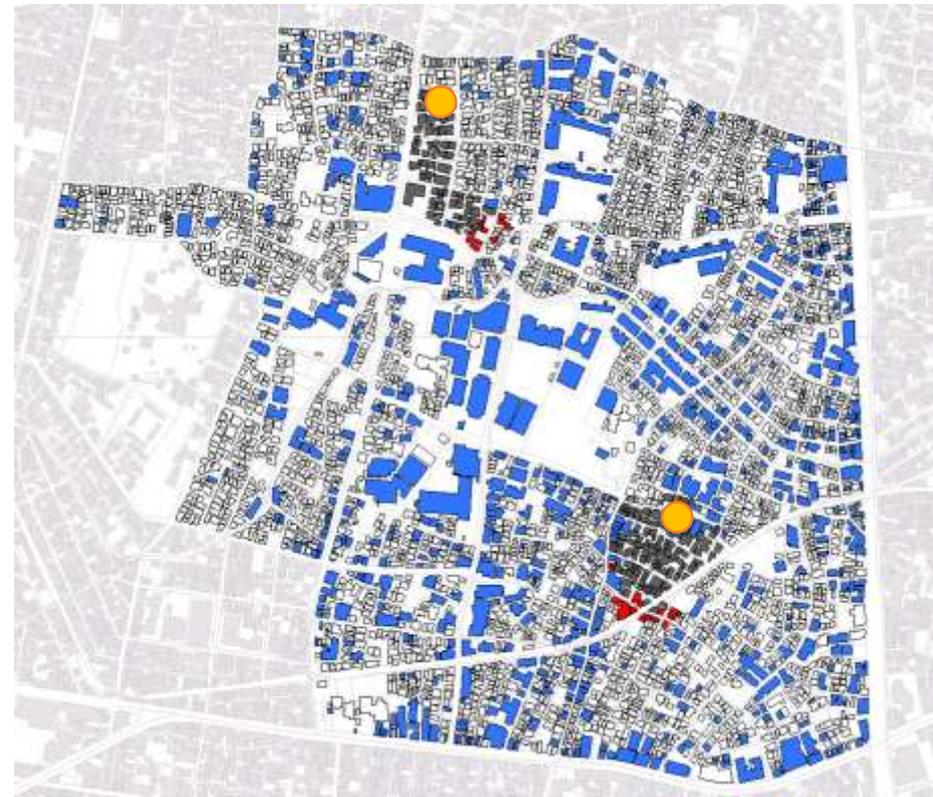
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **995**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **243**棟



270分



耐火造



出火点

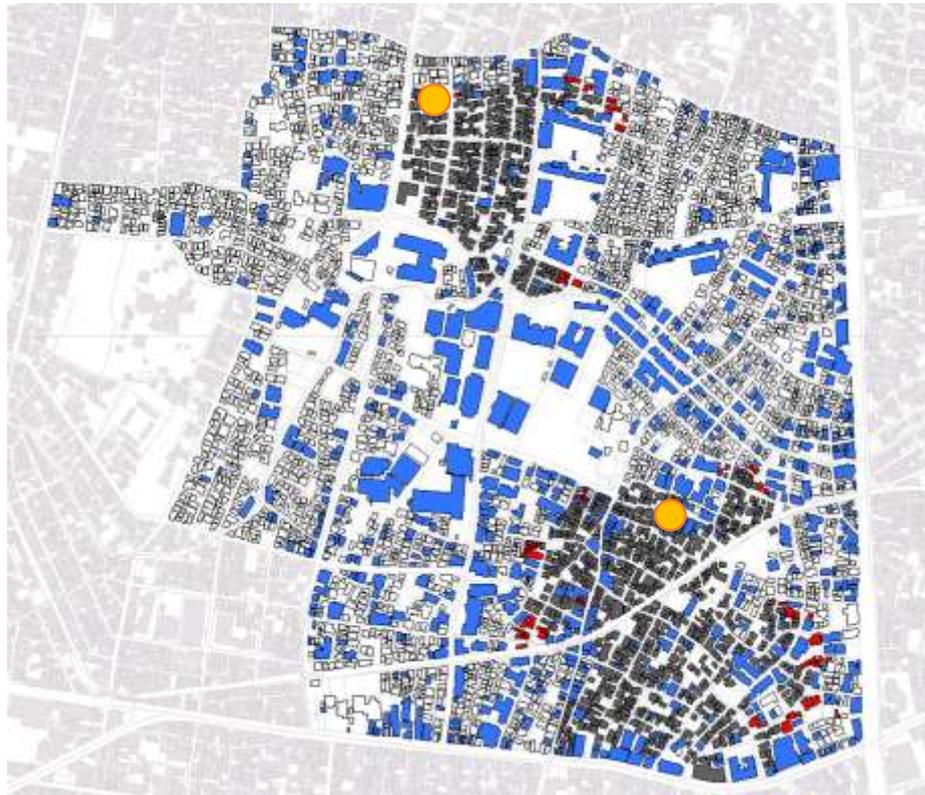
57

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

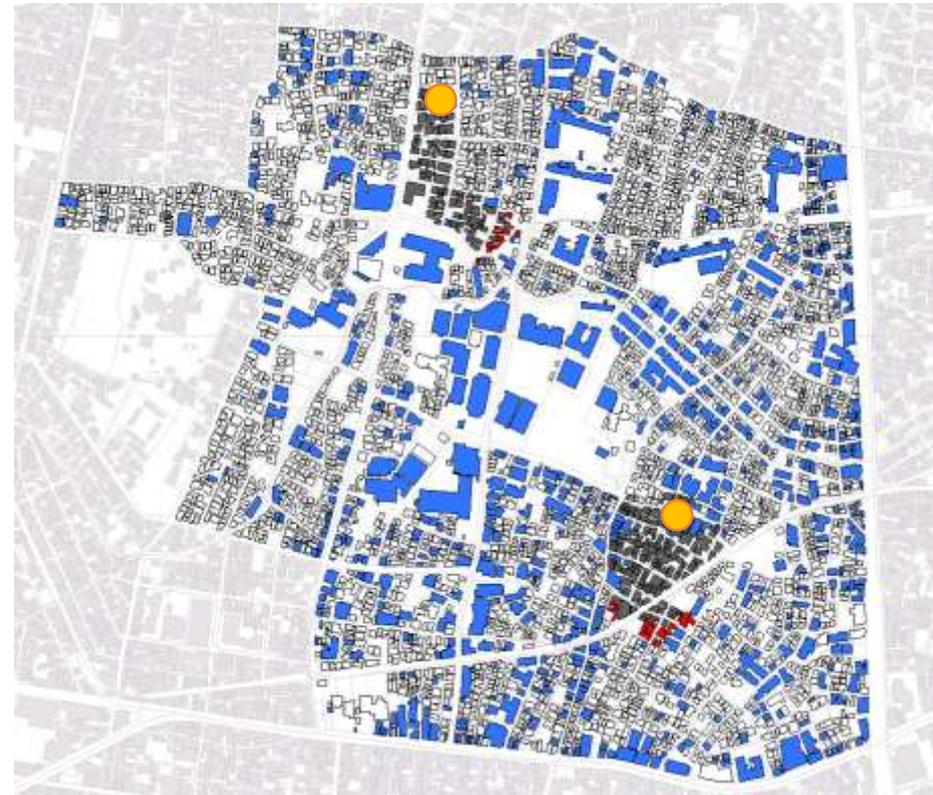
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **1068**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **276**棟



300分



耐火造



出火点

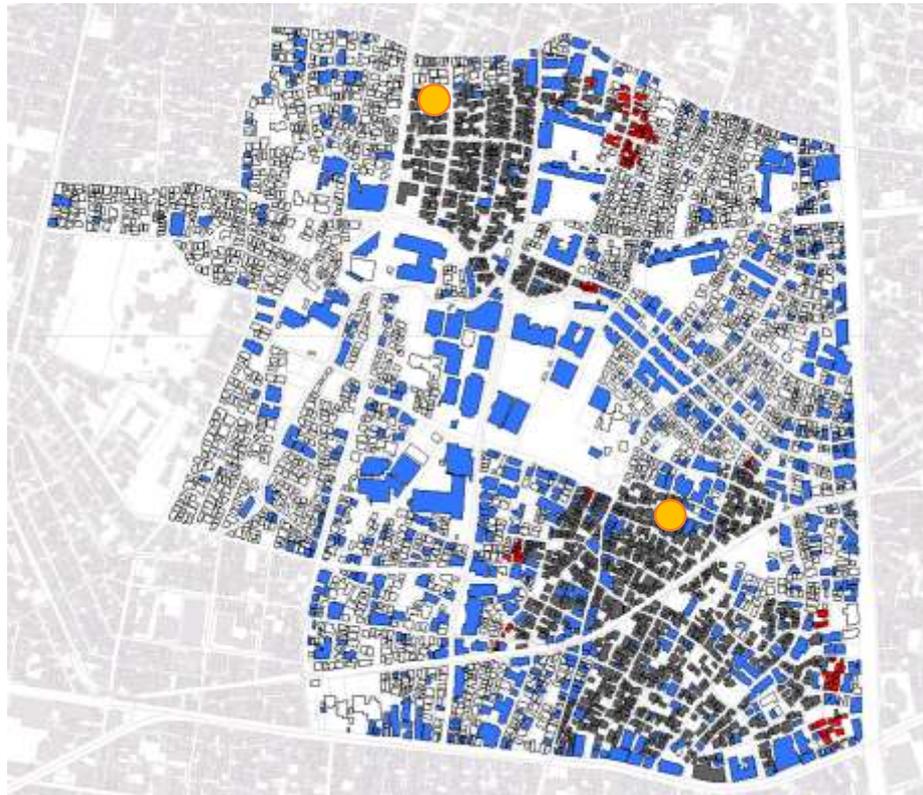
58

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

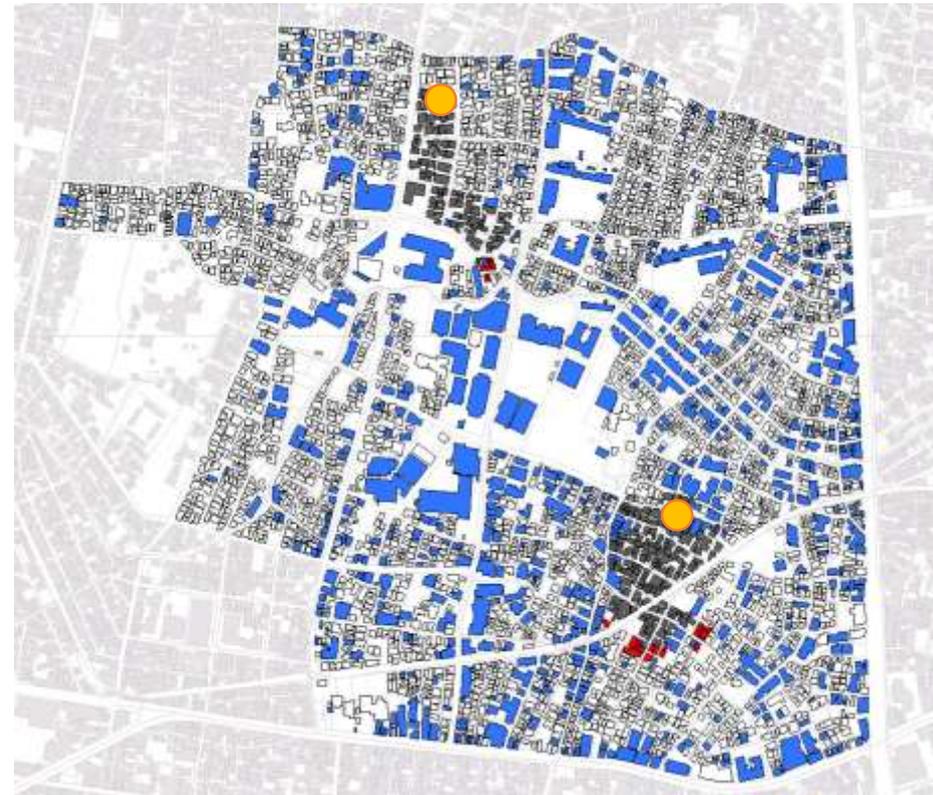
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **1166**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **303**棟



330分



耐火造



出火点

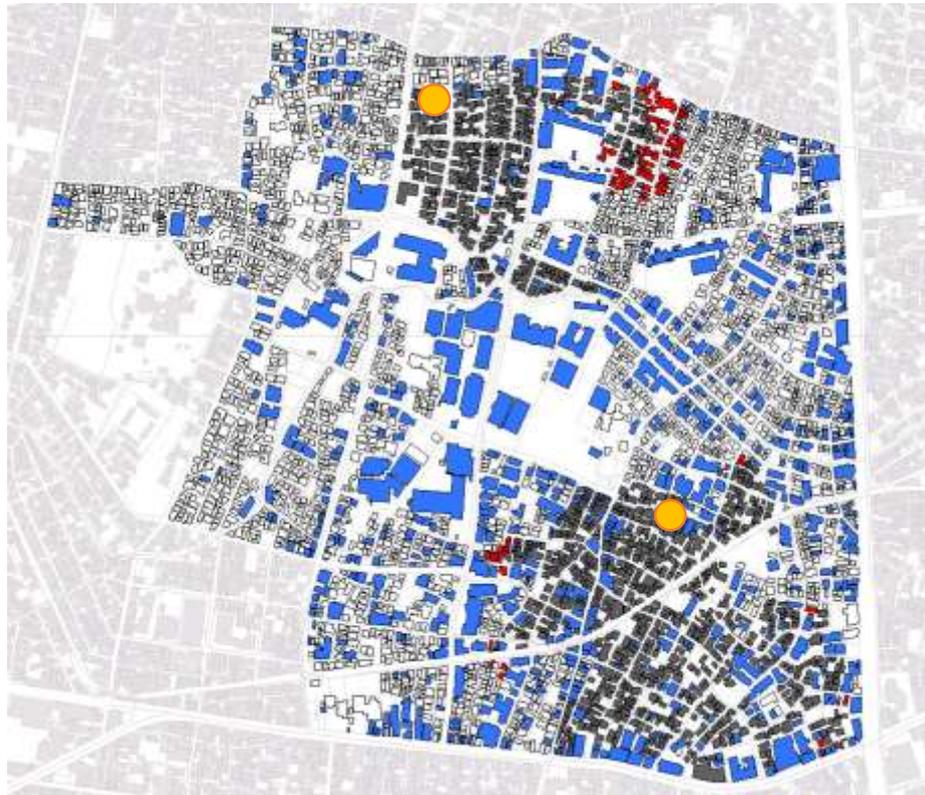
59

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

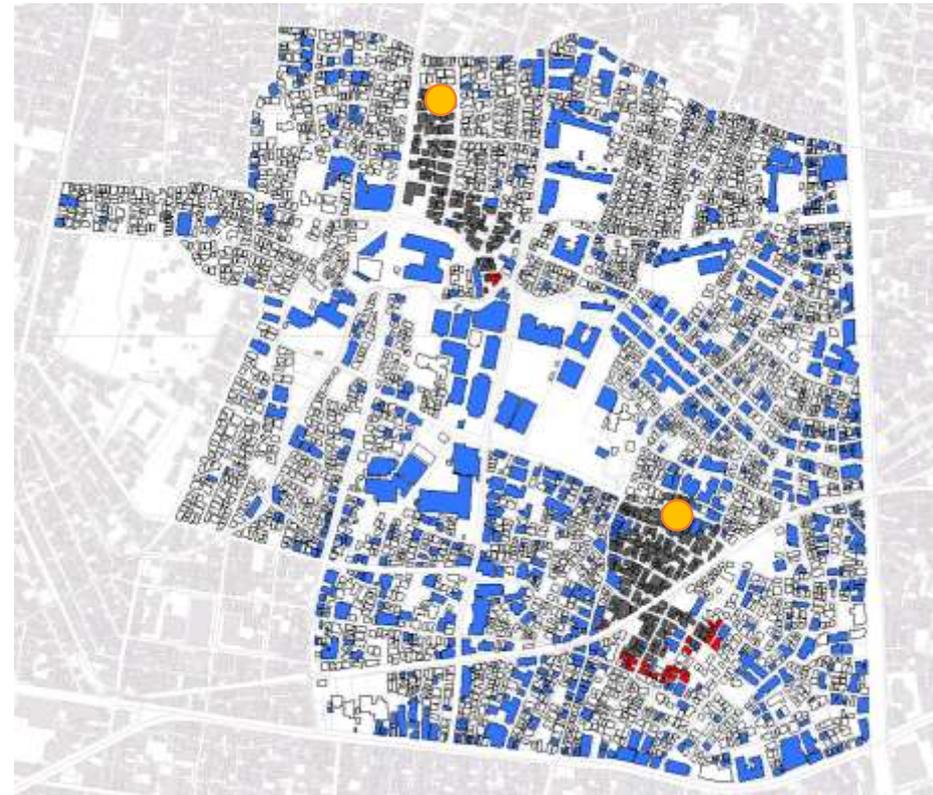
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **1257**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **331**棟



360分



耐火造



出火点

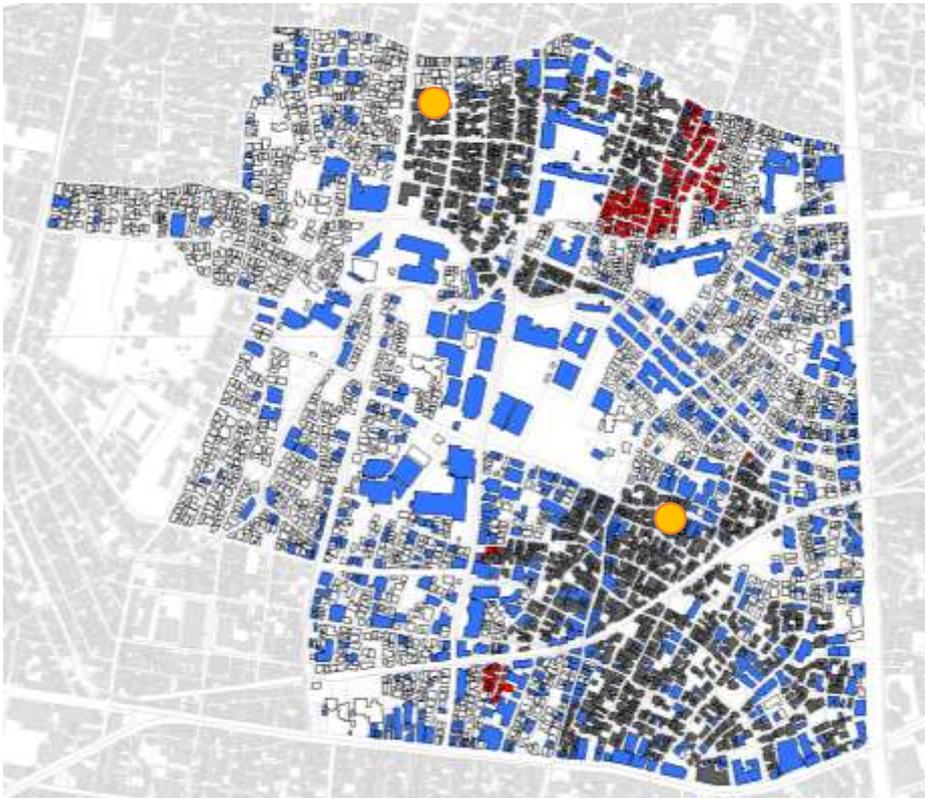
60

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

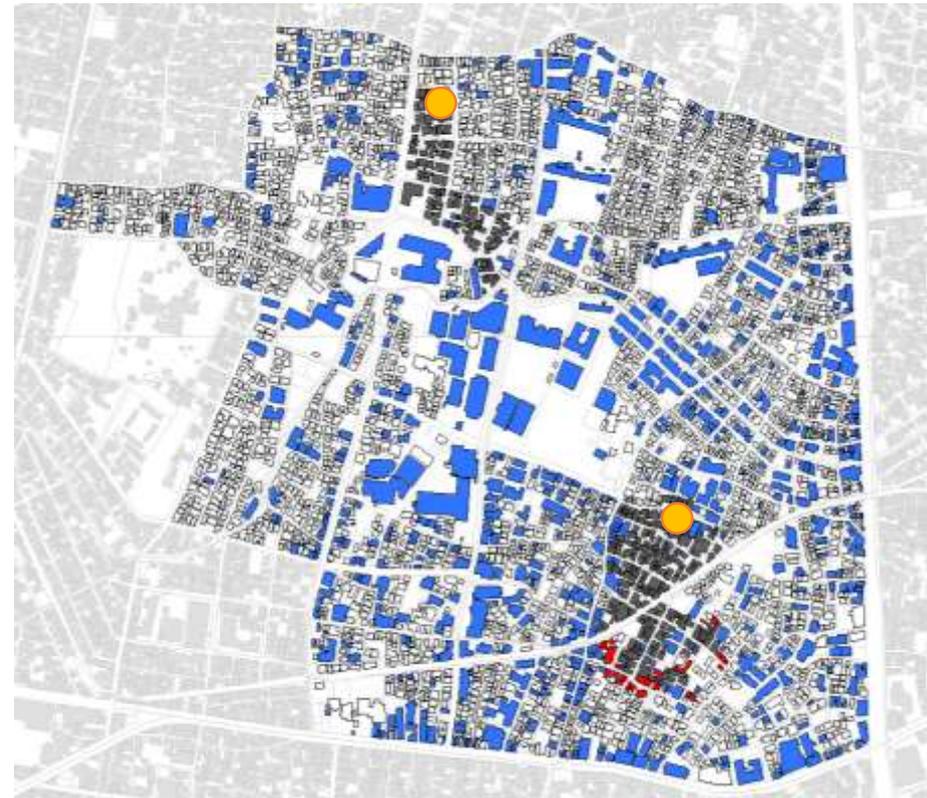
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **1401**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **360**棟



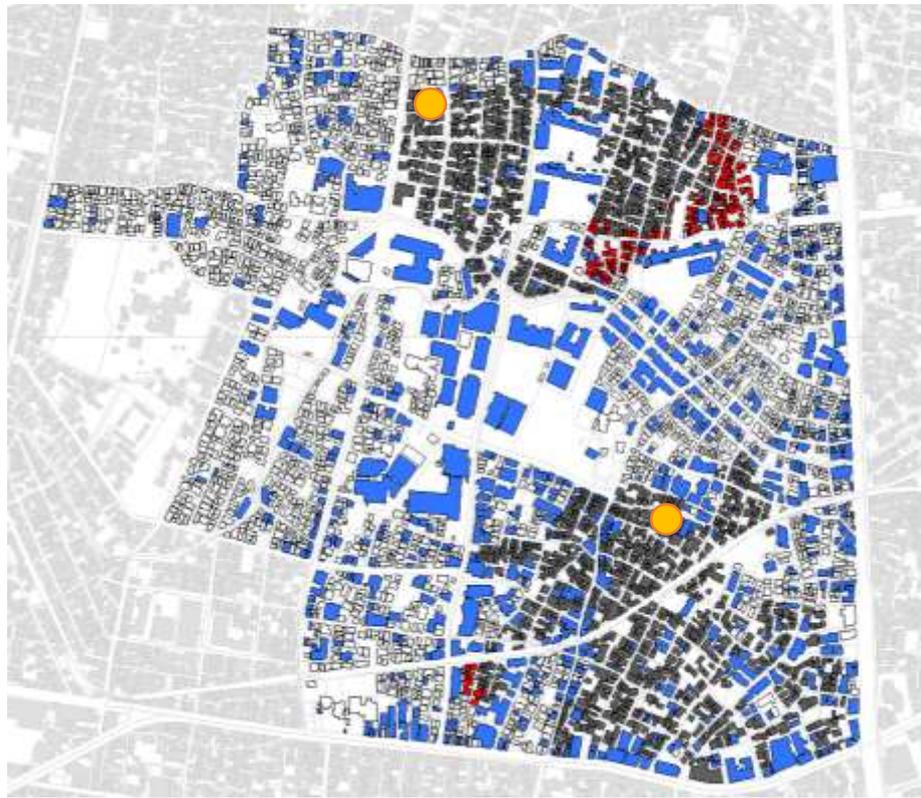
390分

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

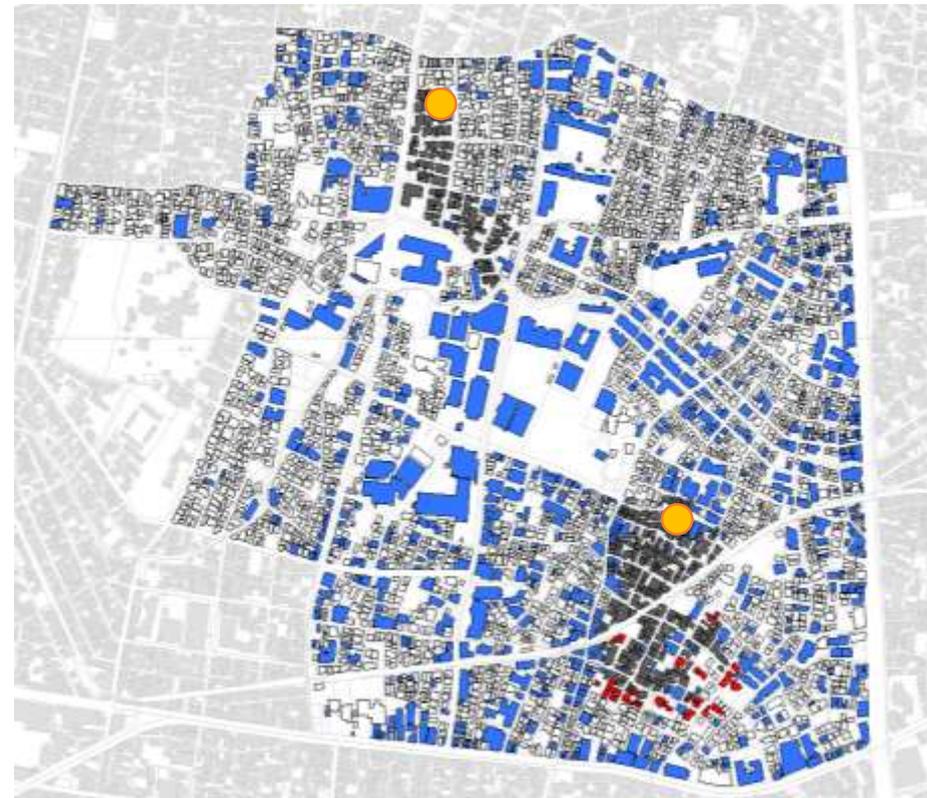
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **1554**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **396**棟



420分



耐火造



出火点

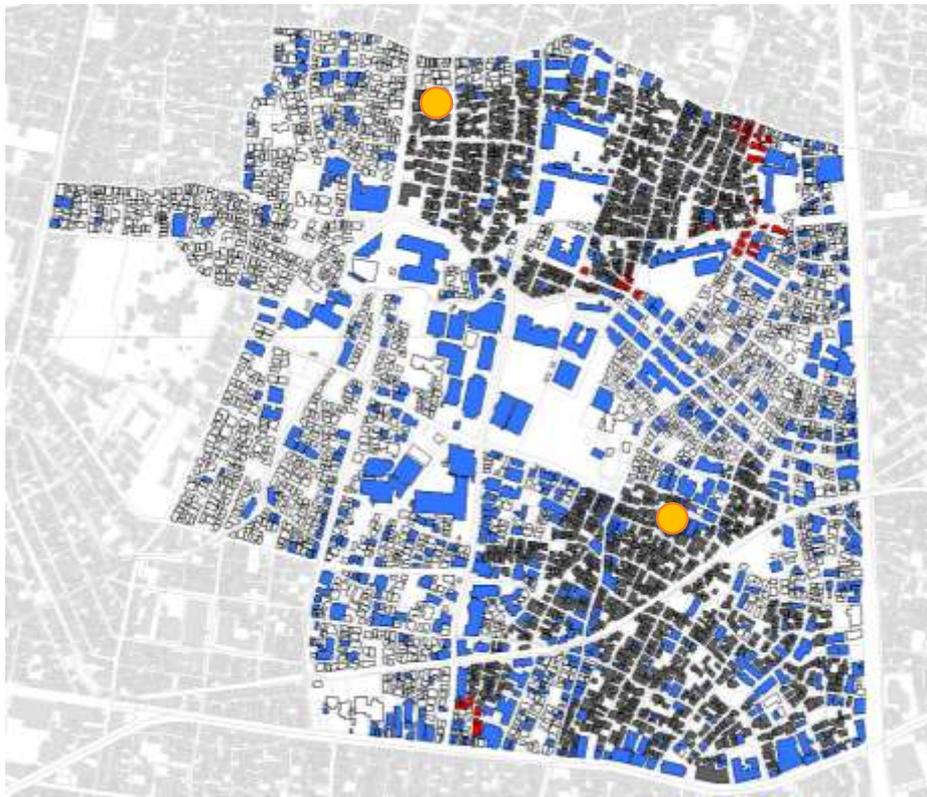
62

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

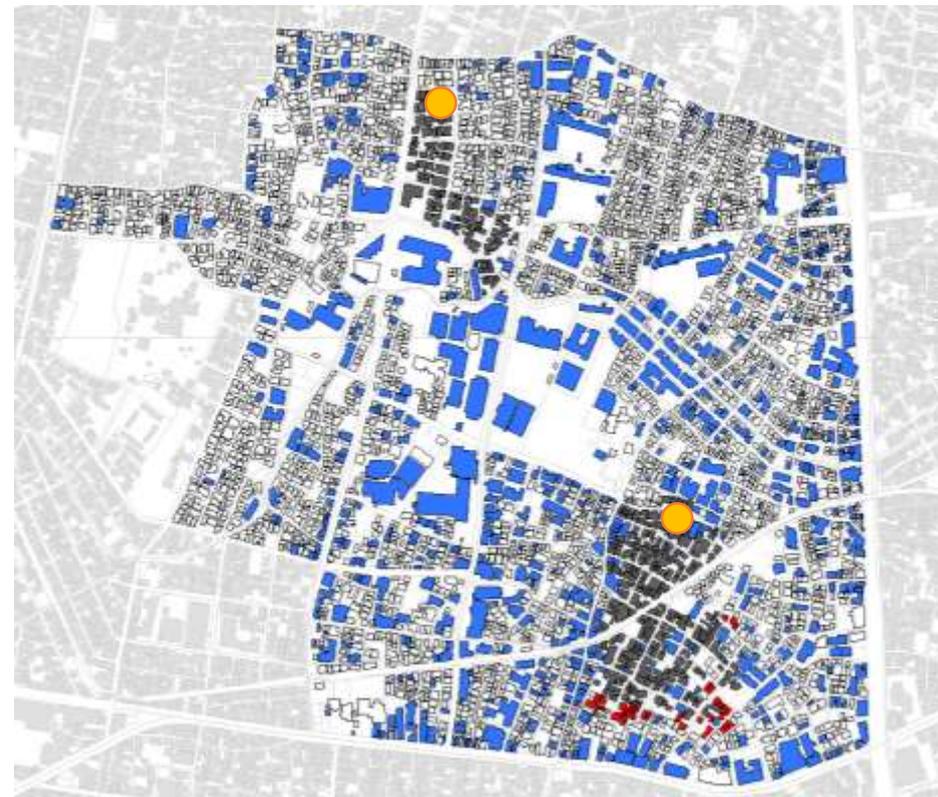
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **1614**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **435**棟



450分



耐火造



出火点

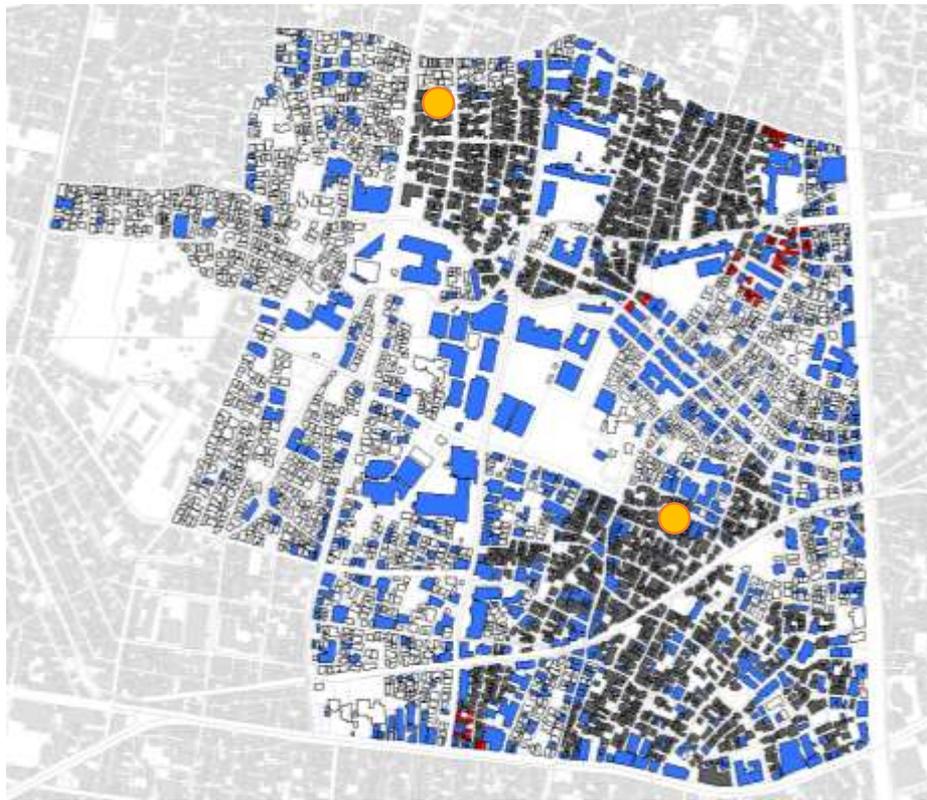
63

4. 「新たな防火規制」の導入

延焼シミュレーション

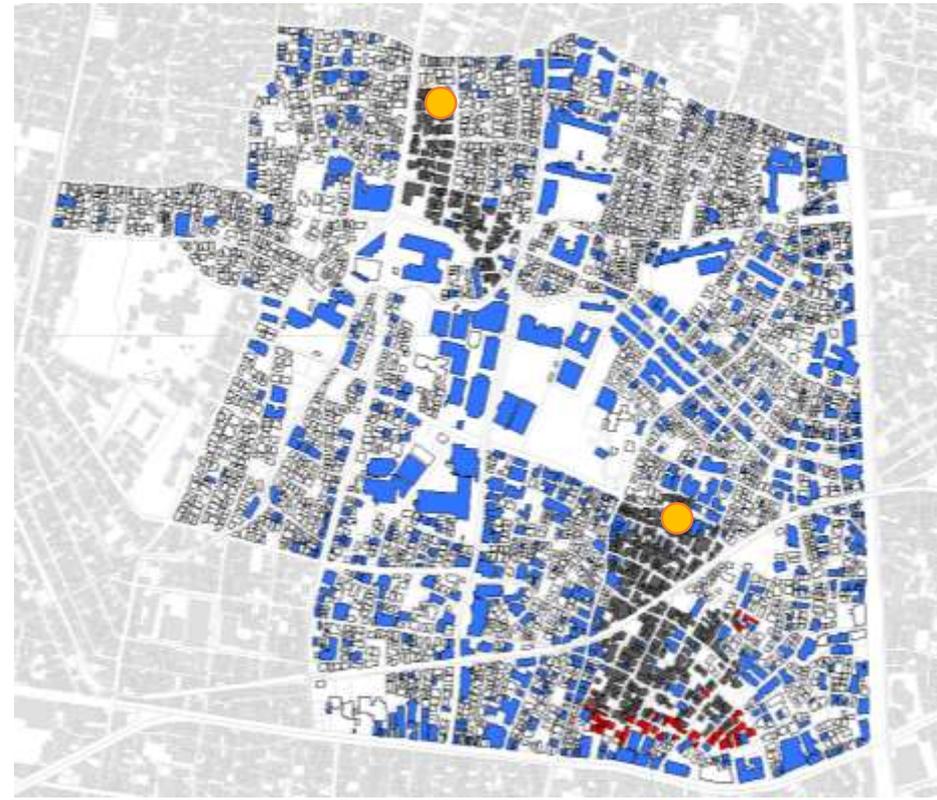
① 現在の建物構造の場合

累積焼失棟数: **1671**棟



② 防火木造とその他の木造の建築物がすべて準耐火建築物になった場合

累積焼失棟数: **488**棟



480分



耐火造



出火点

64

5. アンケートの中間報告

アンケート調査の概要

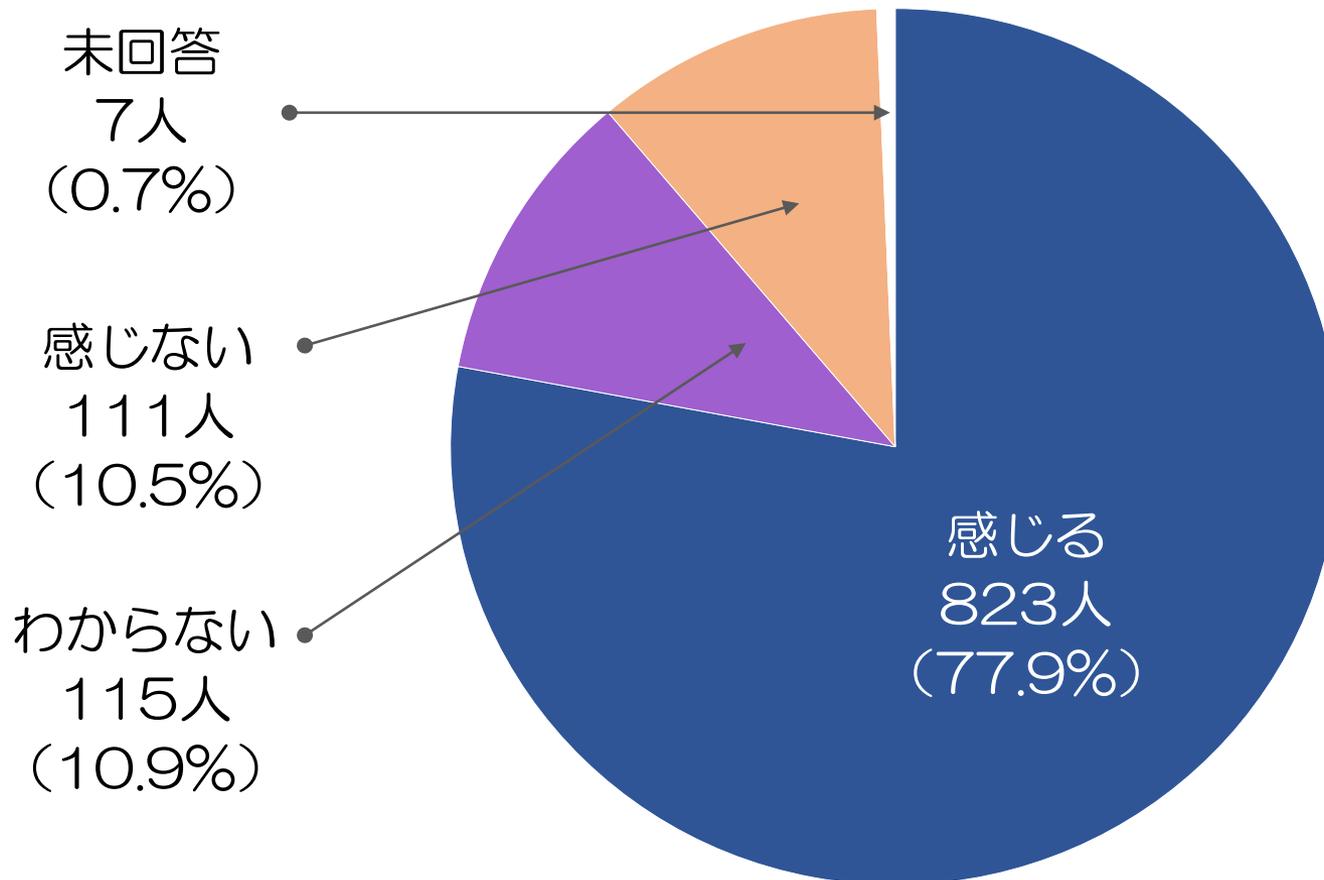
実施主体	世田谷区世田谷総合支所街づくり課
対 象	導入検討区域の土地建物の所有者及び居住者の皆さま
実施時期	平成25年11月7日～21日
方 法	アンケート用紙の配布： 全戸配布、郵送（区域外にお住まいの土地建物の所有者の方） 回答回収： 郵送、ファクシミリ、街づくり課窓口受付
回収結果	配布数：13,953票、回収数：1,056票、回収率：約7.6%
回 答 者	区域内にお住まいの方：約93.7% 区域外にお住まいの土地建物の所有者の方：約6.3%

5. アンケートの中間報告

アンケート調査の結果(中間報告)

[設問1]

日ごろ、防災面での課題を感じていますか？

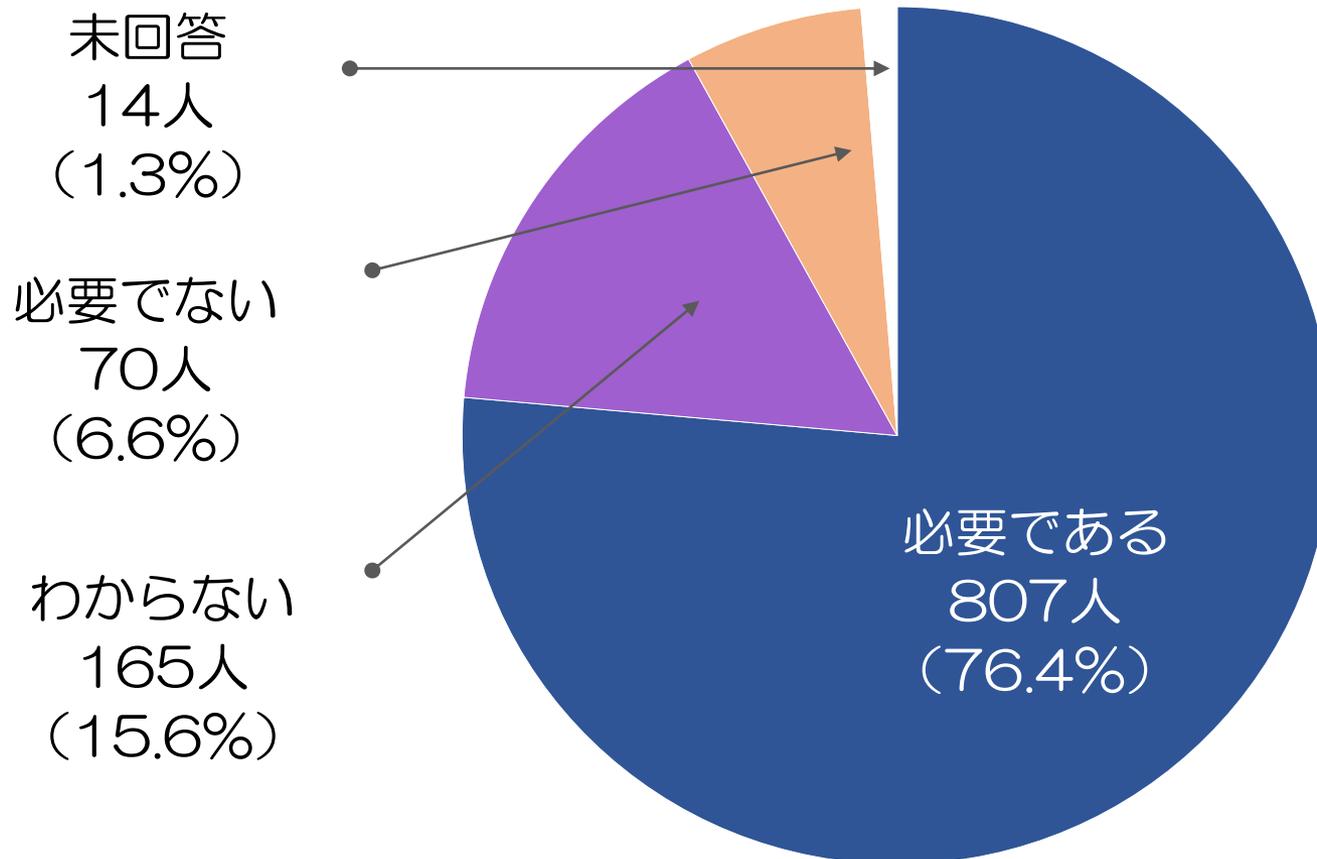


5. アンケートの中間報告

アンケート調査の結果(中間報告)

[設問2]

「新たな防火規制」の導入は必要だと思いますか？



5. アンケートの中間報告

主なご意見

必要であると回答した方の主なご意見

- 特に木造建築物が多い地区なので少しでも耐火性能を上げるために必要。
- 阪神大震災時の延焼で火の威力を見せ付けられた。子どもを巻き込みたくないと常々思っている。
- 地域の高齢化も進み、地域の安全、安心に居住を続けるための対策は不可欠。万が一の時にもご近所から犠牲者を出したくない。
- 首都直下型地震による火災が想定されるため。

必要でないと回答した方の主なご意見

- 一部の建築物が耐火になっても意味がない。
- 個人の負担が増えることになりかねないため、ある程度の基準を満たしているのであれば現状が良い。
- 消防車が通れる道路整備が先ではないか。

わからないと回答した方の主なご意見

- 規制の導入による具体的な効果がわからない。
- 防火は大切だが、現状がわからない。
- 防災性も大事ですが、一概に決めるのもどうかと思う。

5. アンケートの中間報告

アンケートで寄せられたご意見、ご質問など

- 木造の建物が建てられなくなるのではないか。
- 木造の良さや、街並みが失われるのではないか。

⇒現在の規制のままであっても、外壁に木の肌が見えるような木造の建物は難しく、今回はこの点についての変更はありません。
なお、準耐火建築物の多くは木造です。
例えば、3階建ての木造は準耐火建築物にしなければなりません。

- 建物の耐火性向上だけでなく、狭い道を広げるよう取り組むべきである。

⇒4m未満の道路については世田谷区狭あい道路拡幅整備条例により、新たな建築の際に後退していただくと共に、承諾をいただいて区が道路状に整備する取り組みを行っています。

5. アンケートの中間報告

アンケートで寄せられたご意見、ご質問など

○建築費が上昇すると思うが、費用はどのくらいかかるのか。

⇒燃えにくい建物を建てるには、建築費が上昇することがありますが、燃えにくい建物にすることで、避難する時間が確保され、ご自身、ご家族の生命が守られると共に、地域全体の防災に寄与するものです。区では「新たな防火規制」に対する助成は行っていませんが、ご理解とご協力をお願いいたします。

《建築費の増額は5%以下（区の調査）》

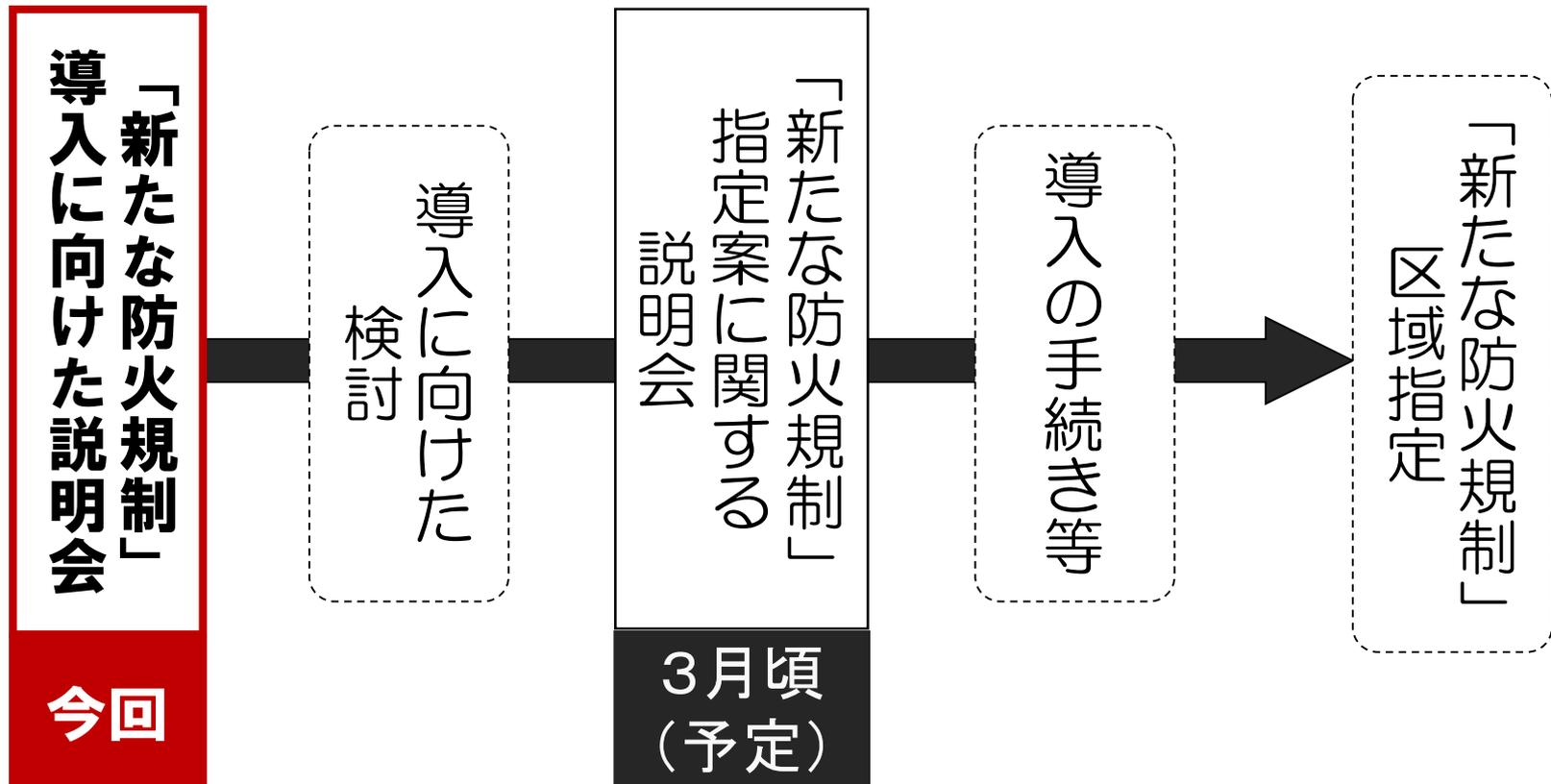
コストメーカー比較（2階建て30坪程度）

平成19年7月現在

メーカー	構造	防火構造建築物(単位:万円)	準耐火建築物(単位:万円)	比較
A社	木造(在来)	2,100	2,190	4.3%増
B社	木造(2×4+在来)	2,400	2,445	1.9%増
C社	木造(2×4)	2,100	2,160	2.9%増
D社	木造(2×4)	1,950	1,995	2.3%増
E社	軽量鉄骨(一部木造)	2,250	2,295	2.0%増
F社	軽量鉄骨	2,100	2,130	1.4%増
G社	軽量鉄骨	2,100	2,100	変動なし
H社	軽量鉄骨	2,100	2,145	2.1%増
I社	軽量鉄骨	1,950	1,995	2.3%増
J社	軽量鉄骨	2,100	2,160	2.9%増

6. 今後の予定

今回の説明会における皆様のご意見を踏まえ、「新たな防火規制」の導入をさらに検討し、「**新たな防火規制**」指定案に関する説明会を**3月頃**に開催する予定です。



7. 質疑・意見交換

ご発言の際には、挙手の上、ご住所・お名前をお願いします